



部材		補修方法		備考
主部材	上工部	主筋、横筋、床版	塗膜除去工	塗膜剝離剤
			塗膜久置剥工	R-1塗剥剤
	支保部	支索	主筋補強工	主筋支保部（断壊減少部のみ）
			受筋筒工	塗膜剝離剤
			受筋丸巻工	R-1塗剥剤
			支保撤去工	ブレークアッパークボルト
	巻留モルタル工	巻留モルタル		
二次部材	路盤	伸縮装置	舗装打設工	滑層舗装（巻留モルタル設置）
			排水施設工	排水設備工事
			伸縮装置工	伸縮装置工事

部材		接続工法		備考
主部材	上部工	主桁、橋脚、床版	変形除去工	変形制御剤
			変形入変接工	R=1変接長
			引張補強工	R=1変接長 (断面減少を最小限のみに)
	下部工		ひびき防止工	引張方向部
			断面修繕工 (芯工法)	ポリマーセメントモルタル
			新張補強工	CC=2変接長
	支保部	支保	変形除去工	変形制御剤
			変形入変接工	R=1変接長
			変取取除工	プレート+アンカーボルト
			管座モルタル	管座用モルタル
管座モルタル打替工			管座用モルタル (管座モルタル補修)	
二次部材	路盤	河原填装	路盤打替工	路盤用モルタル (管座モルタル補修)
			路盤切取工	路盤用モルタル (管座モルタル補修)
			土留部補修工	金網、ハナ
			側壁勾上補修工	勾当
			排水橋設置工	排水橋設置工

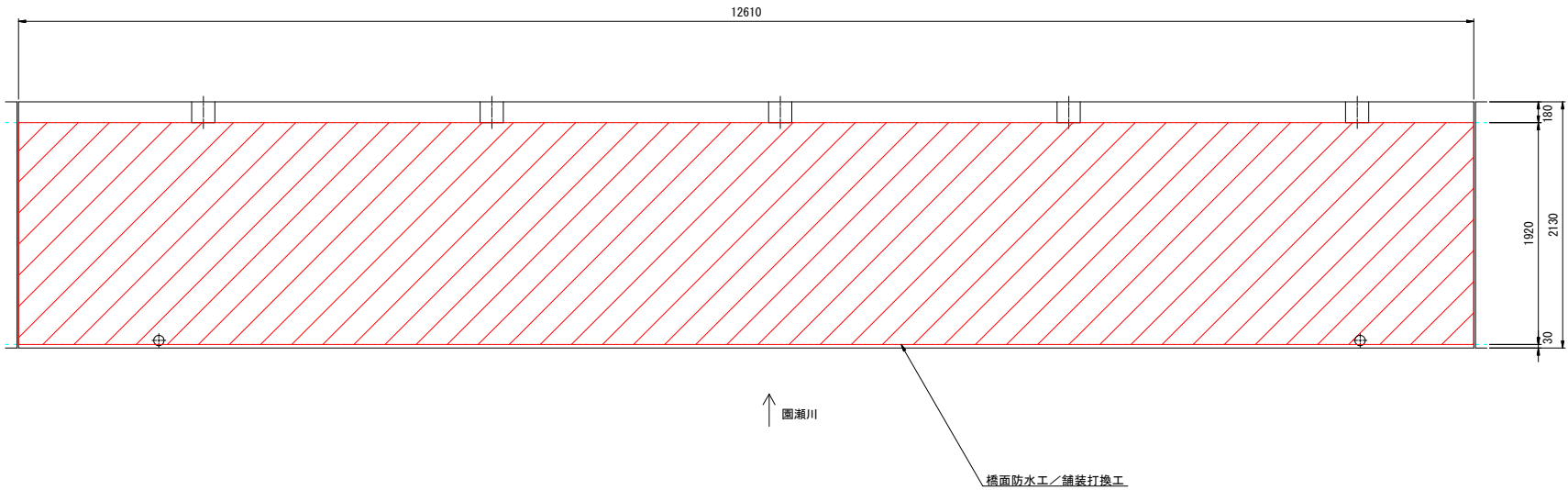
橋梁諸元			
------	--	--	--

	本橋	狐部部	東側歩道橋	西側歩道橋
架設年度	1936年(昭和11年)	1970年(昭和45年)	1970年(昭和45年)	1968年(昭和43年)
橋長	113.650m	113.650m	113.650m	113.650m
桁長	12.600m	12.600m	12.600m	12.600m
支間長	12.570m	12.200m	12.400m	12.400m
全幅員	8.250m	3.500m	2.130m	2.130m
有効幅員	7.750m	3.000m	1.920m	
平面形状	R=∞、θ=90° 00' 00"	R=∞、θ=90° 00' 00"	R=∞、θ=90° 00' 00"	R=∞、θ=90° 00' 00"
縦断勾配	不明	不明	不明	不明
横断勾配	1.500%	1.500%	1.000%	1.000%
設計速度	T-201f	T-201f	群馬県道	群馬県道
上陸工形式	鉄筋コンクリート9段単斜T桁橋	RC造非合流2段単斜H桁橋	鋼床式9段単斜H桁橋	鋼床式9段単斜H桁橋
下部工形式	橋台	不明	逆T式橋台	フラット形式
	橋脚	ハイルベンT橋脚	ハイルベンT橋脚	フラット形式
基礎工形式	橋台	鋼管杭 φ406.4	鋼管杭 φ406.4	鋼管杭 φ406.4
	橋脚	鋼管杭 φ600	鋼管杭 φ600	
重要基準書	大正15年 道路橋梁に関する規則	昭和39年6月 鋼道橋設計指示書	昭和40年9月 橋歩道橋設計指示書	昭和40年9月 橋歩道橋設計指示書

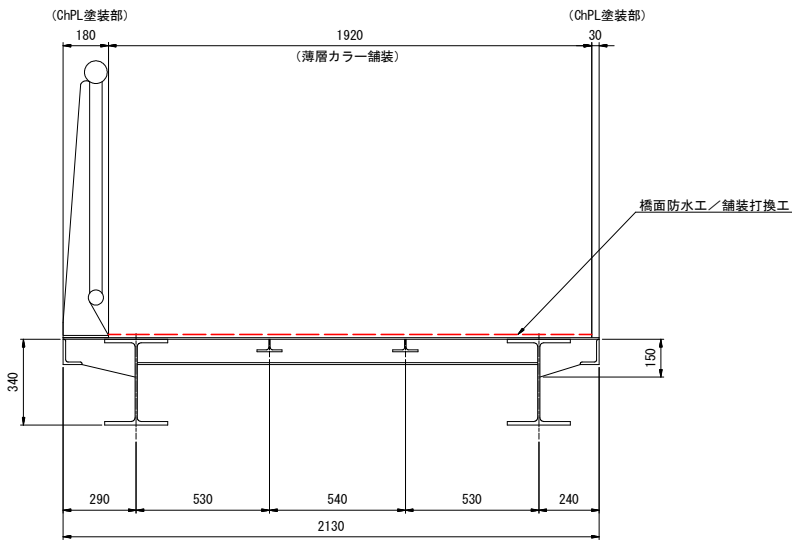
工 事 名	R8 徳土 徳島小松島線（津田橋） 徳・昭和～新浜 舗装修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市昭和町～新浜町（津田橋）		
図 面 名	橋梁修繕一般図		
縮 尺	図示	図面番号	1 / 5
年 度	令和8年度		
事業者名	徳島県土木整備事務所		

東側歩道橋 橋面防水工図

橋面平面図 S=1:30



上部工断面図 S=1:15



数量表

(1橋あたり)					
工 種	名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面防水工	防水層設置	塗膜防水層(ゴム溶剤型)	m2	217.89	
	舗装撤去	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m2	217.89	
	般運搬	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m3	1.71	
	舗装打換工	樹脂モルタル舗装工 t=8mm	t	3.96	

数量表

(1径間あたり)					
工 種	名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面防水工	防水層設置	塗膜防水層(ゴム溶剤型)	m2	24.21	
	舗装撤去	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m2	24.21	
	般運搬	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m3	0.19	
	舗装打換工	樹脂モルタル舗装工 t=8mm	t	0.44	

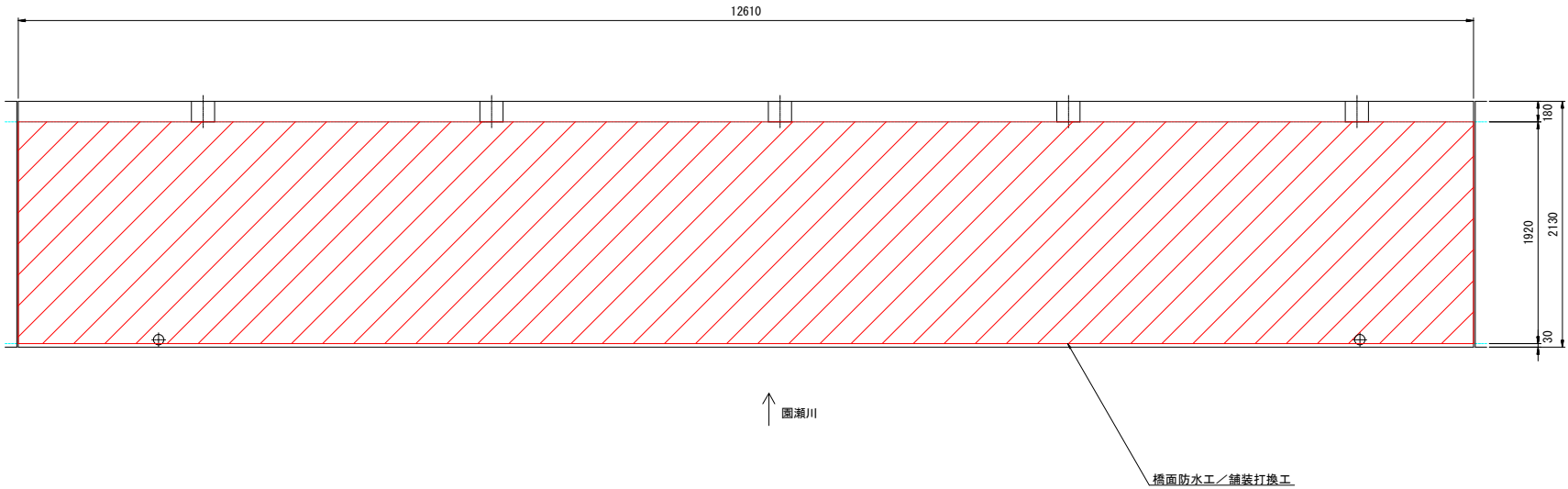
【実施設計図面】

工 事 名	R 8 徳土 徳島小松島線 (津田橋) 徳・昭和～新浜 舗装修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市昭和町～新浜町 (津田橋)		
図 面 名	東側歩道橋 橋面防水工図		
縮 尺	図示	図面番号	2 / 5
年 度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

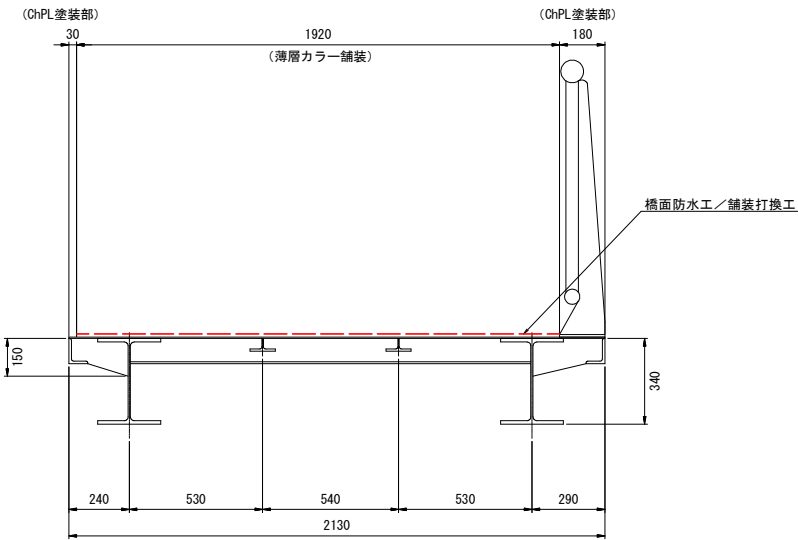
(注意事項)
1. 本図面は、竣工図および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。

西側歩道橋 橋面防水工図

橋面平面図 S=1:30



上部工断面図 S=1:15



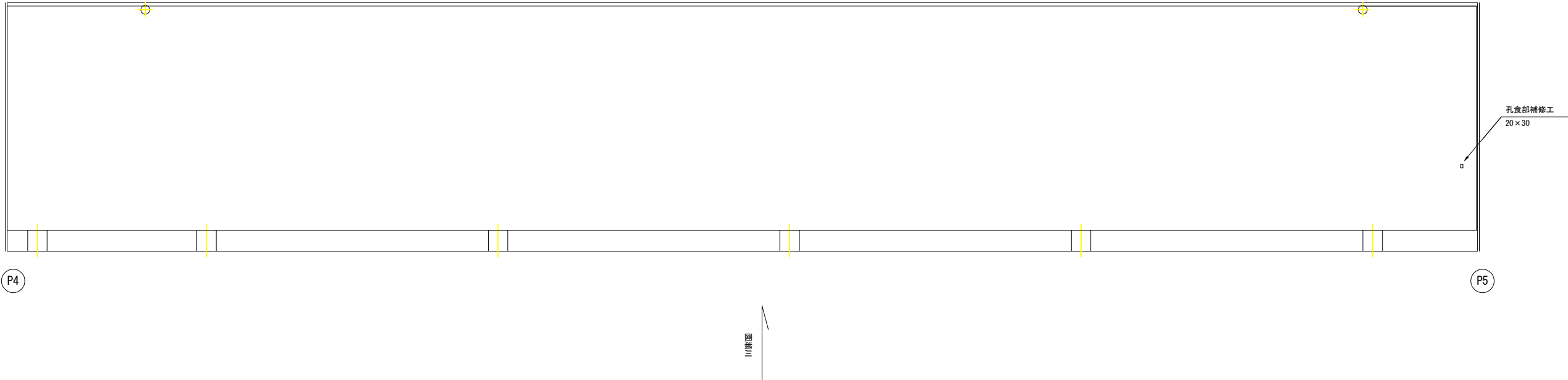
数量表 (1橋あたり)					
工 種	名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面防水工	防水層設置	塗膜防水層(ゴム溶剤型)	m2	217.89	
	舗装撤去	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m2	217.89	
	舗装打換工	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m3	1.71	
			t	3.96	
	舗装復旧	樹脂モルタル舗装工 t=8mm	m2	217.89	

数量表 (1径間あたり)					
工 種	名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
橋面防水工	防水層設置	塗膜防水層(ゴム溶剤型)	m2	24.21	
	舗装撤去	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m2	24.21	
	舗装打換工	既設橋面舗装はぎ取り t=8mm	m3	0.19	
			t	0.44	
	舗装復旧	樹脂モルタル舗装工 t=8mm	m2	24.21	

(注意事項)
1. 本図面は、竣工図および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。

【実施設計図面】			
工 事 名	R 8 徳土 徳島小松島線（津田橋） 徳・昭和～新浜 舗装修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市昭和町～新浜町（津田橋）		
図 面 名	西側歩道橋 橋面防水工図		
縮 尺	図 示	図面番号	2 / 5
年 度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

平面図（第5径間）



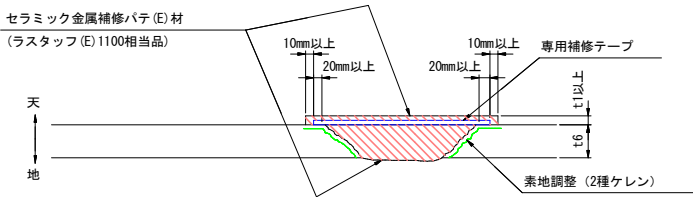
孔食部補修工図

(1橋あたり)

名 称	仕 様	単 位	数 量	備 考
セラミック金属パテ		m2	0.01	1.0kg

セラミック金属パテ補修工要領図

S=NON



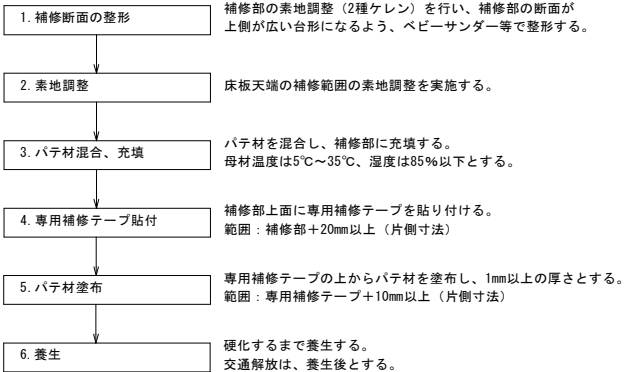
セラミック金属補修パテ(E)材 基本物性

項 目	試験結果
引張接着強さ	23.6N/mm2
耐磨耗性(磨耗輪法)	52.0mg
ロックウエル硬度Rスケール	115
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

注)

- 本図面は、竣工図および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。
- 補修部の断面は上が広い台形断面となるよう、ベビーサンダーなどで成形すること。
- パテ補修部の素地調整については2種ケレン以上とし、旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させること。
- 素地調整後は、速やかにパテを塗布すること。
- パテ材の硬化のため、補修部の母材温度は5℃～35℃、湿度85%以下の環境で施工すること。

孔食部補修エフロー



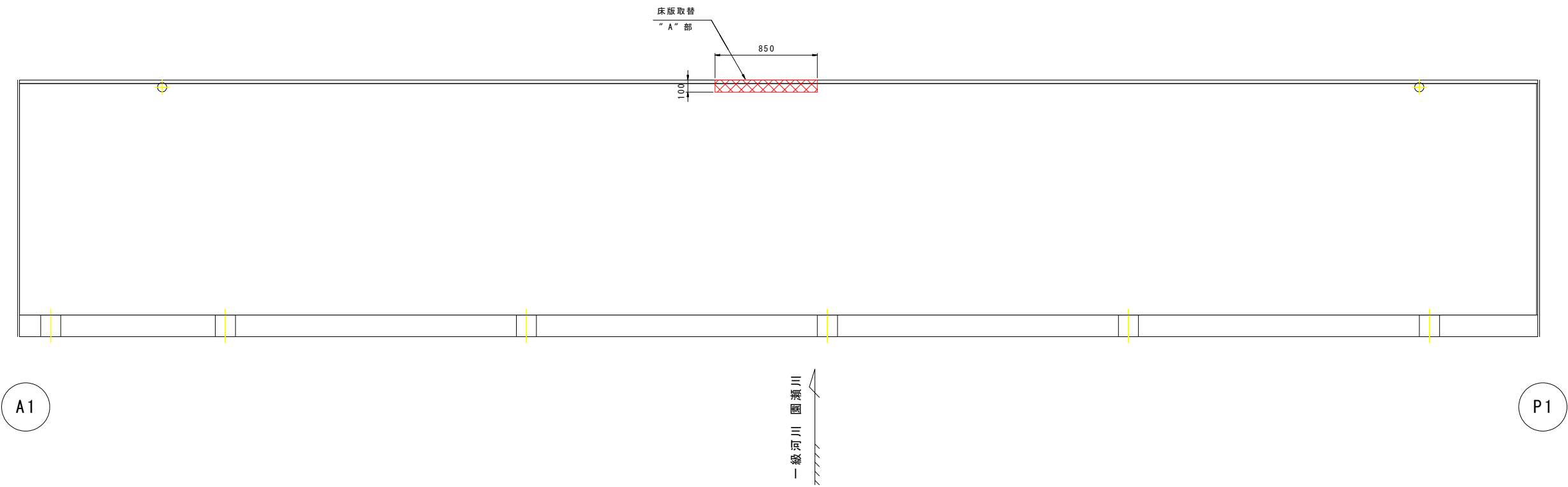
【実施設計図面】

工 事 名	R 8 徳土 徳島小松島線（津田橋） 徳・昭和～新浜 舗装修繕工事		
路 線 名 等	徳島小松島線		
工 事 箇 所	徳島市昭和町～新浜町（津田橋）		
図 面 名	西側歩道橋 孔食部補修工図		
縮 尺	図示	図面番号	3 / 5
年 度	令和 8 年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		

西側歩道橋 鋼板うき補修工図

S=1:20

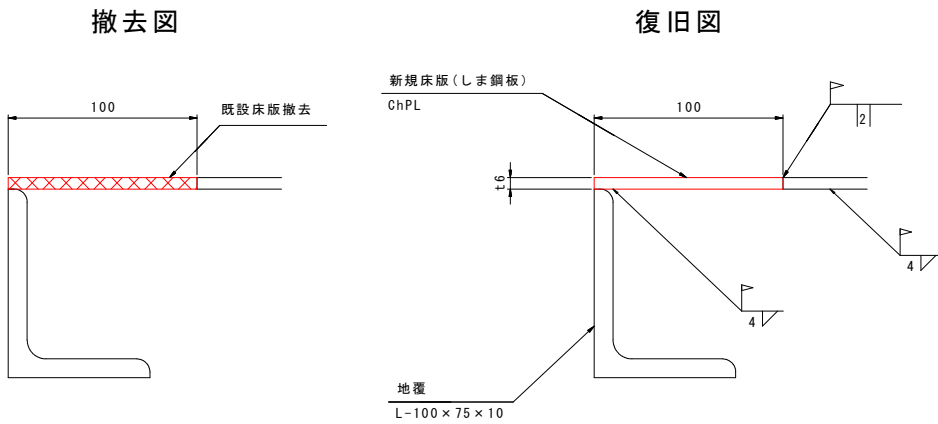
平面図（第1径間）



床版取替要領図

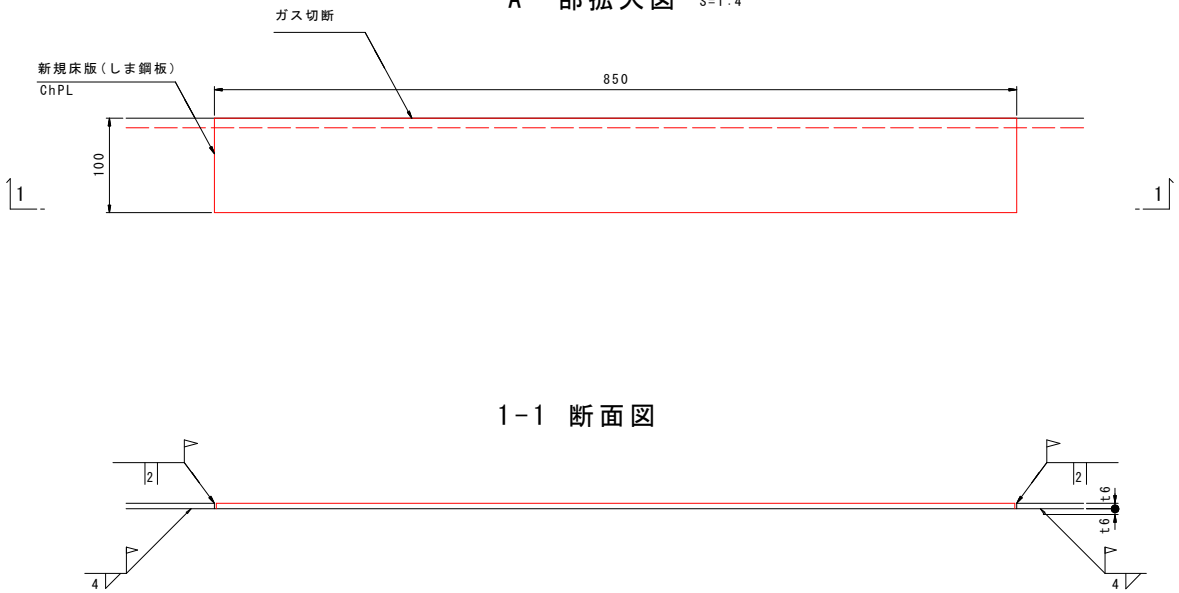
断面図

S=1:2



“A”部拡大図

S=1:4



数量表

(1橋あたり)

名 称	規 格	単 位	数 量	備 考
しま鋼板	t=6、SS400	t	0.004	
補修工事ガス切断切削仕上げ		m	1.90	
現場溶接工		m	3.97	
スクラップ	ヘビーH1	t	0.006	

- (注意事項)
- 本図面は、竣工図および現地計測による寸法を記載したものであり、設計に使用する場合には、当該部材寸法を再度現地計測する必要がある。
 - 既設部材切断時には、床版(ChPL)以外の部材を傷つけないよう注意すること。
 - 塗装および舗装は別工程にて実施するため、本工程では計上しない。

【実施設計図面】

工 事 名	R8徳土 徳島小松島線(津田橋) 徳・昭和～新浜 舗装修繕工事		
路線名等	徳島小松島線		
工事箇所	徳島市昭和町～新浜町(津田橋)		
図 面 名	西側歩道橋 鋼板うき補修工図		
縮 尺	図 示	図面番号	4 / 5
年 度	令和8年度		
事業者名	徳島県土整備事務所		